

Apple系・ 電子書籍の創り方

Copyright (C) Shun, All Rights Reserved.

はじめに

2010年は「電子書籍元年」とか言われているみたいです。それを象徴するかのごとく、巷で売っているパソコン関係の雑誌には「電子書籍」の文字が踊り、iPadの発売後、その勢いは加速しています。

書店では、『[iPadでつくる「究極の電子書齋」 蔵書はすべてデジタル化しなさい!](#)』など、電子書籍を用いた「電子書齋」という単語もチラホラ見かけるようになり、こうした動きはますます本格化していくに違いありません。

ただ、今、売られている電子書籍関連本を見ても、どこもかしこも「ドングリの背比べ」と言うか……。悪い言い方をすれば、「自炊」「ScanSnap」という単語を並べているだけのよう感じられました。

また、単純にかつ手っ取り早く電子書籍を作りたいのに、その「成り立ち（歴史）」だとか「最新のファイル形式」を延々説明されているのを見るだけで、本を閉じてしまいそうになります。

あと、テーマが『電子書籍』にも関わらず、作り方の本を書店へと買いに行かなければならないということ。ネット通販にしても、最終的に「紙のマニュアル」になることに、どうも矛盾感を感じるのは気のせいでしょうか？

「だったら、電子書籍の本屋で買える作り方のマニュアルを、電子書籍で作ってみよう」と思ったことが、コレを作ろうと思った動機です。

「いかに電子書籍は重要か？」や「PDFって何？ 使い方は？」という件に関しては、『[電子書籍の衝撃](#)』や『[今すぐ使えるかんたんmini PDFビジネス徹底活用技](#)』など、別の（紙の）専門書を買ったりして勉強するのが一番早いです（笑）。この書籍でのプライオリティとしては大して重要なことではないので、割愛させていただきます。

さらに！ 電子書籍の出版本をややこしくしているのが、多種多様に渡る「フォーマット」の存在です。Apple、Kindle、ソニーリーダー、Android、ガラパゴスなどなど。普通の電子書籍本は、それらのフォーマットについて「一応の親切心」で全て解説するため、「誰にでもできる」「初心者のための」というキャッチに惹かれて書籍を買った超初心者にしてみれば、どれがすぐに必要で、どれが後で必要な知識かがゴチャゴチャになると思います。

だから、この書籍ではAppleオンリーに絞りました。なぜなら、ハードの普及率で言えば断トツだからです。多くのユーザーがいるということは、見てもらえる（買ってもらえる）チャンスがあるということ。だからAppleのハードで見ることを想定して書きました。

さらに言えば、個人での出版をややこしくしているのが、AppleStoreやAmazonの販売システムです。普通に作っても受け付けてくれず、「我々のフォーマットに従いなさい!」と、ワードでインデントがどうの、タブがこうのと、多岐に渡り細かい指定があり、それを考えながら作るだけで出版への意欲がそがれます。私もそうです。

だから、今回は日本で手軽に電子書籍を出版することができる、この『[パブー](#)』
<http://p.booklog.jp/> の利用を想定して作りました。なぜ、パブーか？ それは

(HTML)言語とかを知らなくても、

一応は形になる！

販売の儲けを、日本の銀行口座に振り込んでくれる！

特に、すぐにでも電子書籍の販売を体験したい人からすれば、アメリカの銀行で新規口座を開設する手間がいないのは魅力的だと思います。

私も、いろいろ試しながら書き進めていくので、宜しくお願い致します。

電子書籍を作る「環境」

この書籍は、紙の書籍のように丁寧な解説で書いていません。あくまで「普段、パソコンを利用している人で、手軽に電子書籍を作ってみたい人」の導入にあたるものなので、最低限でも以下の知識がある人が望ましいと思います。

一人で、パソコンに（フリー）
ソフトをインストール出来る
PDF、JPEGとは「何のことか」が
わかる
iTunesの「ブック」からApple端末にファイル転送出来る

もっと言えば、ホームページを作る時に必要な「HTML」言語の知識がある人であれば、最高でしょう。

最初、「電子書籍はEPUBという拡張子を使い、XHTMLという言語で書かれている」ということを紙の本で見たのですが、いざ自分で作り始めたら、HTMLの知識が少しでもあれば、文字に色をつけたりすることが簡単にできるものだと知りました。別に知らなくても電子書籍を作れますが、より豊かな表現をするために知っていて損はありません。

それで、何を用意すればいいのか？ 『パプー』で電子書籍を作るにあたり、必要なハードは……

Windows、マッキントッシュ、Linuxなどのパソコン
iPhone、iPod touch、iPadのどれか

必要なソフトは……

[『パプー』](#)のサイトを使えば

必要無し！

ネットに繋がらない状態で編集したい人はメモ帳かワープロソフト。

パソコンレベルが中の中以上の人は「[Sigil](#)」というフリーソフト。

（※英語サイトからダウンロード）

で十分です。携帯電話のメールをパソコンに転送して、それを貼りつけることだってできますので、メモ帳すらいらなないかもしれません。極論、iPadなどのウェブ環境さえあれば、編集できるのでしょう。

ちなみに、著者の「環境」は

Windows Vista
iPod touch

(イーモバイルのWi-Fiルーター)

iBooks (無料アプリ)

パブー & Sigil

※HTMLとCSSの知識を少々

です。別に、プログラムの知識は無くとも、今回は問題ありません。

電子書籍(EPUB形式)やPDFを見るのには、iBookを使っています。Appleのアプリでは「グッドリーダー」などが有名ですが、できるだけお金をかけないで作り、楽しむのがモットーなので、なるべく無料の方法でいきたいと思います。

いざ、『パブー』で作成！

まずは、[『パブー』](#)のサイトで会員登録（アカウント作成）をしましょう。もちろん無料です。と言うか、これを見ている時点で会員登録をしている人が多いかもしれませんが（笑）。『パブー』を知らない人に向けて、念のために入れる一文です。

アカウントを作成して、会員登録が終わったら、トップページの右上から「本を作る」をクリックし、本の「タイトル」と「概要（どんな本か）」を書きこみます。そうすると、「未公開」状態の本が作成されます。

あとは、「ページのタイトル」部分が目次になるので、どんどん中身を追加していただけます。「章」→「見出し（目次部分）」といった設定もできますので、詳しくはサイトの使い方を見て下さい。

本来なら、写真を載せながら解説したいところですが、~~そうすると無駄にページが長くなるので、直感で使ってみて下さい。~~本を作るページの左側に、いろいろ見出しが書いてありますので、目的に合わせてそこをクリックしましょう。

編集したい時は「ページの管理」をクリックして、編集したい目次を選べばいいですし、表紙を設定したい場合も公開したい場合も……左側を見れば分かります。

ただ、最初から凝ったことをしようとすると、必ず面倒くさくなります。なので、手始めは章とか細かい分類はせず、タイトルを入れて本文を書くのくり返しでやっていき、公開するのがいいと思います。

重要なのは「こんなに簡単に出来た！」という達成感だと思いますので、それを繰り返していくうちに、慣れていき、複雑な設定もできると思います。

また、書くコツとしては、別紙に目次と書く内容をまとめておくことです。それを見ながら進行していけば、書きながら順番や内容を確認する手間が省け、中身も迷わずに書き進めることが出来ると思います。（※もしくは、目次を先に作ってしまっても混乱しないようにするとか）

書き上がったなら、「PDF・ePub更新」でファイル更新をし、作成されたEPUBファイルをダウンロード。iTunes経由でApple端末に取り込み、状態の確認をしましょう。公開して、読者が増えてクレームが来る前に、写真が表示されなかったり、読みにくかったりする部分を訂正する作業をしておくのが無難です。

見た目にOKと思ったら、「作成状態」の「完成」を選択し、その後「この本を公開する」をクリックして、一般公開してみましょう。

「電子書籍の作成」って謳っているのに、「これだけ!？」かと思うかもしれませんが、これだけです。簡単ですよ？ 特別な知識は全く必要無く、電子書籍形式のファイル作成が可能です。

事前にテキストで（読んでもらいたい）文章を用意しておけば、あとはコピー&ペーストの地道な作業だけ。こんな簡単に電子書籍ができてしまうのが、『パブー』の魅力だと思います。

「表紙」問題

中身が充実してくると、気になるのが.....そう！ 表紙です。

設定自体は、左側に出てくる「本・表紙の設定」からたどっていけば簡単に出来るのですが...問題は写真です。

例えば、ネットに風景の写真が落ちていて、自分では「このぐらいいいでしょ？」と思っても、撮影した人からすれば言語道断！ 裁判すれば、ほぼ負けます。

いろんなところに書いてあると思いますが、イラストにしる写真にしる、作成者・撮影者の許可を必ず得ること！

フリー素材なら「商用での利用がOK」となっているかどうか、必ずチェックしましょう。

「じゃあ、自分で撮影したのならいいでしょ？」と思うかもしれませんが、見知らぬ人物だったり、特定の建物が写らないよう、配慮すべきです。10人とか100人レベルの読者の時に出てこない問題が、1000人や1万人になると出てくる可能性がありますから。

近年、テレビ番組でも、街ブラしている映像に結構な確率でモザイクが入っています。以前だったら「撮影している時にカメラを横切った方が悪い！」だったのですが、今は個人情報保護法だとか、面倒な法律がわんさかあるので、法廷で戦ったらメディアが負けるのです。建物も「何、ウチの電話番号を写して載せてんだよ！」と言われてアウトな可能性もゼロではありません。

せっかく、楽しく電子書籍を作ろうと思っていたのに、「面白い・面白くない」以外のクレームがつくとやる気が無くなります。だから、最低限のルールは守りましょう！

一番安全なのは、自分で描いたりすることでしょう。Windowsなら、標準で搭載されている「ペイント」などのソフトを使えば、JPEG形式のファイルが作れます。

無料の「ドロー系ソフト」も多数あるので、自分が使いやすいものを選ぶと良いかと思います。

ビジネスマンの方であれば、使いなれたパワーポイントでJPEG形式のファイルが作れます。この書籍の表紙も、パワポで文字を打ち込んで作りました。

最初はそんなものでいいと思います。凝りたい人は、後で思い切り凝ればいいんです（笑）。

「粗製乱造」問題

『パブー』を使えば電子書籍が簡単に作れ、自分の作品をPDF形式とEPUB形式で手軽に世に出すことができます。でも、そうなる出てくる問題が「粗製乱造」……つまり、粗悪品が大量に出てくるということです。

例えばですが、新着本の欄をクリックしてみると、（私を含め）どこの誰が書いたか分からない作品が、次から次へとアップされていきますよね？ それを毎日、全部読んでみたいと思うのでしょうか？ おそらく、タイトルと表紙をチラ見してから厳選して、何冊かをページビューで読み、気に入ればダウンロードするはずです。

「電子書籍を作れるかどうかのテスト」として、ブログやら詩集っぽいものを作るのはいいですが、「売りたい」と思っているのでしたら、ある程度のクオリティが必要になってくると思います。

[米光一成](#)さんという方が、今ほどEPUB形式の電子書籍が出ていなかった頃に、（電子書籍を）インターネットではなくフリーマーケットの対面形式で発売するという試みをし、反響を呼んだことがあります。

でも、もう「電子書籍に興味あるから、とりあえずダウンロードしてみよう！」という時期は過ぎた気がします。これからは、電子書籍で良い作品に出会いたいと願う読者が多くなるでしょう。

だから私も、自分の徒然日記ではなく、人が読んで（見て）タメになるモノを作ろうと思い、一番役に立ちそうなマニュアルを選んだわけです。

ブログもそうですが、人に読んでもらえるというのは嬉しいものです。ましてや、高評価を頂けると、その後の励みになります。

だからこそ！ いつまでも「ブログ（日記）を電子書籍で出してみた」ではなく、何か作品になりそうなもの……。プロの編集者が「ぜひ、うちで『紙』にしませんか！？」と言ってもらえるような内容を目指すよう、心がけた方がいいと考えます。特に、印税生活を夢見ている人であれば……。

目的に応じたファイル形式

現在、「電子書籍」というのは「電子端末で読める書籍」を指し、特定のファイル形式を指すものではないように思います。EPUBはもちろん、PDFも電子書籍ですし、テキストだって立派な書籍になりえます。

なので、『パブー』がある今、電子書籍を作成するからと言って、**Sigil**のようなEPUB作成ソフトの操作法を無理矢理に覚える必要はないと思います。むしろ、その覚えている時間を内容の充実に割いた方が、はるかに読んでもらえる書籍が作れます。

参考までにiBookで認識できるPDFとEPUBの長所を比較をしてみたいと思います。

<EPUB>

- ・ ページをめくるようなビジュアルが楽しめる
- ・ 文字を指定してハイライト（蛍光ペン）が引けたり、コピーや辞書機能といったダイレクトな操作が可能
- ・ 「目次」を作成可
- ・ 本体を回転させた時に、併せて文字列も適切なサイズに調整される

<PDF>

- ・ PCでも閲覧可
- ・ 小さい記事などを拡大可
- ・ レイアウトの多様性
(※オフィスソフトやフリーソフトから作成可)
- ・ iPadなどで直接取り込み可

などの特徴があります。短所はそれぞれの長所の逆ですが、特に困る短所は、縦書きPDFを寝そべて読もうとすると勝手に横向きに回転し、縮小された写真の文字が小さくなって読みにくいこと。また、ScanSnapで取り込んだA4サイズ雑誌のEPUBは、拡大が出来ないので何が書いてあるかiPhoneサイズの画面では読み取れないこと。……そんな感じです。あとは、たいがい目をつむれると思います。

「どうしても作りたいんです！」という方は、読んでもらう読者の用途・目的を考えて、EPUB形式のファイルを作る勉強をするかどうか、検討してみてもは？

ただ、最近、EPUBのハイライト（蛍光ペン）機能を利用したソーシャル・リーディングという、同じ書籍を購入した人が「どこに線を引いたか？」が共有できるサービスがあると聞きました。また、今後のXHTMLの進化で「動き」を付けられる機能が搭載されるかもしれません。そういった未知の可能性を秘めているのはEPUB形式の方です。本気で電子書籍作家を目指す方は、勉強しておくといいでしょう。

読者の「環境」を考える

この電子書籍を見ていて、「何か、変なところで改行されてて、読みづらいな」と思うiPadユーザーの方がいるかもしれません。実は、細かいところでiPhoneユーザー対応をしています。なぜなら……私がiPod touchを使っているからです（苦笑）。

Apple系端末の画面の大きさは2種類です。でも、『パブー』からダウンロードできるEPUBの種類は1種類です。ということは、必然的にどちらかが見やすいように合わせないといけないわけで……。だから、まだ閲覧ユーザー数が多いであろう、「iPhone画面サイズ」の陣営を選んだこともあります。

普通に小説的な読み物なら、あまり関係無いのですが、読みやすい・読みにくいが一番ハッキリ出るのが『対談』モノだと思うのです。例えば……

- A そうですか。
- B そうなんです。
- A ……

と短文の連続ならいいのですが、そうはいかないですよ？ 長文でしたら

- A そうですか。
ということは？
- B そうなんです。
実は……。

というように、発言者とセリフの始まりの位置を別々にしたい人がいるかと思います。それが気にしない人は

- A そうですか。
ということは、つまり
こういうことですね。
- B そうなんです。
実は……。

と、発言者の部分を太字にするなどして、見やすい対策を取るべきでしょう。

でも、iPhoneだろうがiPadだろうが、適度なところで折り返してくれる書き方があります。それは

- A
そうですか。ということは、つまりこういうことですね。
- B
そうなんです。実はカクカクシカジカで……。

と発言者を独立した行にすれば、横のサイズに関係なく折り返しができます。まあ、対談集などを出す人は滅多にいないと思われませんが（笑）。

つまり、何を言いたいかという、読者のことを考えて見やすい方法を模索して下さいということです。これはApple端末に限らず、キンドルなどでも同じことが言えるでしょう。特に写真が入る電子書籍は要注意かと。

読者の「ソフト」を考える

この電子書籍は、基本的にiPhoneかiPadの**iBooks**で閲覧することを前提に書いています。しかし、当然のことながら、別な高性能のリーダーを使っている方もいらっしゃると思います。**stanza**や**GoodReader**などなど.....。

「環境」のパートでも書きましたが、Apple系端末はiPhoneとiPadの画面サイズがありますが、ダウンロードできるEPUBは1種類です。ところが！ さらに、端末とソフトの組み合わせを考えていくと、「2種類の画面サイズ」×「3種類（以上）のEPUB人気閲覧ソフト」で、最低でも6パターン.....それぞれに最適化されたEPUBファイルが必要になるわけです。別な報告によると、iBooksでは問題無く閲覧できているこのファイルも、**stanza**では改行後にムダな空白ができたり、**GoodReader**ではフォントサイズが小さくて読みにくいなど問題が出ているようです。

ですが、現状の『パブー』のシステムですと、それぞれの個人の端末・ソフトに合わせた最適化は無理ですよ。どうしたらいいのか？ それは、おそらく「割り切り」しかないです。1つのファイルをアップロードして、全てのパターン（ユーザー）に都合のいい最適化の方法が出来ない以上、多数派に合わせるしかないのです。『パブー』の専用リーダーがソフトとしてリリースされればいいのですが.....。現状ではそういった動きは無いようなので、無料で一番普及していると思われるソフトがいいと思います。だから私はiBooksにしました。

どうしても「文字が小さい！」などのクレームが来る場合、最初の方のページに注意書きとして記述しておくといいでしょう。「この書籍は、iPhone (iPad) の@@ (iBook等) で閲覧することを推奨します」と。そうすれば、「推奨環境以外で見ているんですから、多少は我慢して下さい」という書き手側の言い訳はできます。何か、家電の説明書みたいですが（苦笑）。

こうした、「無理が通れば、道理が引込む」的なことがあるから、電子書籍の普及が爆発的に進まないような感じがするんですよ.....。紙の書籍は手に取ったモノが既に「最適化」されたものですが、電子書籍は環境によって見れる作品の形が違います。それこそ、コレをパソコンで見るとApple端末で見るとは、結構違いがありますし。（※特に、インデントを使っている部分がWebでは表現されていないのが嫌！） 何とかしたいと思っている人は、ルールを作る側に回る.....つまり、**i文庫HD**みたいな専用のリーダーを作るしかないです！（爆）

この電子書籍は、公開しつつ内容が増えていく「進行型」です。そして、もう1つのパターンは「完結型」です。書いている実感としては、『パブー』で電子書籍を作りたいと思っているのでしたら、おそらく後者の完結型の方が注目されると思われます。

そう感じた理由は……これを書いている今は、20ページ近い内容でそれなりに読めるモノになっているはずですが、公開した時は数ページで「何だこれ。量、少なっ！」と思われた方もいるかと思います。当初、「とにかく、電子書籍が俺にも作れるという実感が欲しい！」と思い、数ページでの公開に踏み切りました。

それで……幸運にも数百人の方にご覧頂いたところで気になったのが「人気ランキング」です。『パブー』では、週間の人気ランキングに表示されるのが1週間以内の作品です。ということは、最初に「マニュアルなのに8ページ？」と思われてしまったのは、その後、いくら50ページの大作になっても、注目されにくくなってしまいます。ならば、最初に「おっ？ 50ページのマニュアル？ 見ごたえありそうだな」と思わせる方が得策だと気付きました。

紙の小説とかでも、数ページ読んだところで「何だか、つまらなさそう」と思ったりするのと一緒に、最初のインパクトが非常に重要なんだな……と、いまさらながらに気付きました。なので、次の作品は、半分以上を完成させてから公開に踏み切りたいと考えています。

「有料」の壁

『[パプー](#)』で、週間の人気本ランキングのページを見て下さい。ランクインしている作品のほとんどが無料じゃないですか？ おそらく、これが電子書籍の現実を反映しているかと思います。「タダなら見る。でも、知らない作家に100円でも払うのは惜しい」と。中には有料でもランクインしているものがありますが、漫画とか手の込んだ作品ばかりです。文字ばかりで売れている作品（特に小説）はなかなか無いと思われます。そんな中、自分の作品をどうすべきか悩むところですよ？

インターネットのホームページでは、「階層が進むにつれ、アクセス数が減る」という現象が必然的に起きます。トップページは見るけど、貼られたリンクはトップページほどお客様が見ていません。同様なことを「おさいぼ！」にも感じるのです。「作品はちょっと面白そうだけど、おさいぼに登録するのは面倒だから」という理由で、10円という格安でも有料作品を敬遠している読者も結構いるのではないかと考えます。この『パプー』で、読者に買って頂くには「ちょっと面白そう」じゃ無理でしょう。「すごく面白そう」じゃないと、おさいぼに登録して料金を払うエネルギーのような感情は生まれないと思います。それぐらい「有料」という壁は高いはずですよ。

小説で「序盤を無料・後半を有料」にするパターンもあります。オチへ引っ張るのです。ただ、その場合、有料にしたオチがつまらないと、今後の作品は二度と買ってもらえないと思います。

有料にした時の7割の印税も魅力的ですが、最初の1作品目は「無名作家のプロモーション」と割り切って無料で公開し、ファンの方がついたところで2作目から有料にする……というのが、今のところベストのように思います。読者の方に「デビュー作が面白かったから、コレも大きくハズレはしないだろう」という安心感を持ってもらうのです。現実世界でも、面白い小説なら1500円でも買ってしまうように、面白い作品が書ける作家なら電子書籍で300円出しても惜しくないと思わせられます。

私も、最初は「有料にすべきか？」と悩みましたが、編集者もついていないイチ無名ユーザーのマニュアルに10円でも払う人はいないだろうとの判断で無料にしました。有料にして誰にも見てもらえないより、無料でもアクセス数を稼ぎ「こんなに見てもらえたんだ」というモチベーションを上げる方が、最初はいいと思います。

ちなみに、某有名作家さんにインタビューをしたことがありまして、その時に「新人の作家は、売れるためにどんな努力をすればいいのですか？」と尋ねたことがありますが、返ってきた答えは「(TBS系列の情報番組の)『王様のブランチ』で紹介されること」でした。文章を書く能力というより、プロモーションが重要な時代みたいですよ。人気タレントやアルファブロガーのような権威が褒め称えれば、「買いたい！」という巨大なエネルギーが発生するのでしょうか。

タイトルと概要

『[パブー](#)』で人目を引くには、「売れた本」「人気本」「新着本」「ランダムピックアップ」の上位に入って、読者の目に留まることが重要です。次から次へと新しい本がアップロードされるため、この4つのどれかに入っていないと、他の人の電子書籍と十把一絡げになってしまうからです。

それで……これらのランキングから漏れてしまった電子書籍を一般の方がどうやって見つけるかと言うと、主に書籍検索になります。『パブー』の検索は、どうやら「タイトル」と「概要」の文字から探すようです。だから、作品の内容を書き込んでおくと、求めている人は探しやすくなると思います。「恋愛小説」とか「@@マニュアル」とか。

私のこの作品は「電子書籍」という単語で引っかかりますが、あと数カ月もすれば「電子書籍」と名の付いた新作がたくさん出て埋もれてしまうでしょう。その時……「一般の方で、電子書籍を作成したい人が、どんな単語を検索窓に打ち込むか？」を考えると、「電子書籍」「作り方」という言葉ではないでしょうか？ でも、書籍のタイトルは「～の創り方」……これじゃ、はじかれしまいますから、ちょっと失敗したと思いました（苦笑）。なので、概要の部分に「～の作り方」と追加しておきました。これで、電子書籍を作りたい人の検索結果は違ってくると思います。

「電子書籍を読者に届けるから、鳩にひっかけて『電書鳩』なんてタイトルはどうだろう？」と思ったら、タイトルに凝った分、内容を丁寧に説明したりすると、検索で引っかかる率が上がると思われます。

また、トップ画面に表示される概要の文字数が48文字のようなので、最初の48文字で簡潔に内容を説明し、その後に作者の思いなどを連ねておくと、訪問率が高まるはずですよ。

「モラル」を考える

パソコンが普及し、簡単に「デジタルコピー」ができる昨今.....問題になるのが「モラル」です。近年、プロの漫画家やクリエイターの方が「動画サイトで作品を見ました！面白かったです！」という悪意の無いファンからのメールをもらうようになり、苦惱（&激怒）しているという記事をインターネットで見たりします。CDが売れなくなっているのと同じ現象が、出版界でも起きているのです。

また、堀江貴文氏のツイッターには「堀江さんの有料メルマガを配りまくっている友達がいる」というタレコミがあり、それに対し「それって犯罪だよ」と答える堀江氏。多分、配っている人は「俺が買ったものなんだから、他人に配ろうが自由じゃないか！」という心理だと思うんです。もしくは、本心から「このメルマガ、面白いから読んでみ！」か。

けど、それって、書き手からしたら月額840円×100人で8万4000円の損失ですよ？ 堀江氏の有料メールマガジンの会員は（2010年後半現在）1万人前後だから、仮に全員がそういう行為をしたら、8万4000円×1万人で8億4000万円の損失ですよ？ 年収300万と言われる時代、一体何人分のサラリーマンの生涯年収になるんでしょうか.....。

電子書籍も同じです。1人の読者が300円で買ったEPUBのファイルを「これ、面白いよ！」と100人に配ったら、あなたがもらえるはずだった3万円×70%の2万1000円が損失。そういう読者が100人いたら約**200万円**がパーです。たかが300円、されど300円です。

こうしたことは、自分が書き手になってみないと分からない苦惱でもあります。「今までは読み手として、お金が無いからネットでタダで読んだりしてました。でも、書き手になったから、私の作品はコピーしないでお金払ってね」なんて、ムシが良すぎると思いませんか？ 少しでもそう感じた方は、無料の作品はともかく、有料の作品を他人に配るのは自粛した方がいいと思います。「お金が無い」「友達だから」という理由でコピーして配っていいわけがありません。

もし、1部でもコピーされるのが嫌でしたら、究極、EPUBではなく有料アプリで販売するという手段もあります。アプリはコピーして渡すことができませんから。ただ、その場合はC言語や、**AppleStore**への審査書類などと格闘しなくてはならないですけどね。

「パブー」と「Sigil」

紙で売ってる電子書籍作成には必ず登場する「[Sigil](#)」というフリーソフトがあります。読み方を検索しても、ちゃんとしたのが定まっていないようなので、スラングっぽく「シ汁（しじる）」と発音することにします。

で、そのSigilなのですが、独自サイトでの配布（ダウンロード）を検討している方にしてみれば、非常に便利なソフトです。コードの間違いも自動的に訂正してくれる機能もあるようですし。

ただ！ 『パブー』だけの公開を目的としている人には関係無いソフトかもしれません。

Sigilは色を指定したりするのに、主にスタイルシート（**CSS**）という、初心者には面倒な言語（プログラム）を使っているからです。

最初、「Sigilで文章を作成して、『パブー』で“HTMLエディターに切り替える”モードにしてプログラム形式で貼り付ければ、書式がズレなくていいや！」と思って作り始めたのですが、いざコピー&ペーストをしようとしたところ、（スタイルシートを記述する）「**head**部分が無い！」と気付いたのです。スタイルシートを使ったとことがある人なら、この残念な感じが分かると思いますが。

分からない人は……。「漫画喫茶でレンタルDVDを借りて見ようとして、テレビデオの取り出しボタンを探したらDVDが付いていなかった」という感じに近いかもしれません（苦笑）。

Sigilの「Book View」のモードで作ったのをテキストで貼りつけたりはできますが、それならわざわざSigilを使わずとも、ワードなどのワープロソフトで十分です。ちなみに、ワードから『パブー』へ文字をコピペすると……

↓

テストです

↑

という感じなのですが……。実は、下書き上では「テスト」という色が赤かったりと、明朝体の書式が再現されているのですが、アップした時、ネット上や端末だと、ただの黒い文字になってしまっています。フォントも変換されてしまっています。（※現在は修正されているようで、ちゃんと見られますね）

ということは、『パブー』上で電子書籍を作るには、メモ帳で先に文章を作り、『パブー』の「ページの作成・編集」モードで太字やアンダーラインといった修飾をしていくのが、一番やりやすいはずです。

下手に他のソフト（サイト）で修飾したりすると、再現が不可能になり、「やり直しの手間だけかかった」みたいなことになるでしょう。

「XHTML」とは？

EPUB版の電子書籍は、「XHTML」という言語で作られて（書かれて）います。用語の意味を詳しく知りたい方は、「[IT用語辞典](#)」とかにアクセスしてみてください。

個人的な言葉でまとめるならば、この「XHTML」は「HTML」の親族みたいなものです。で、その「HTML」をインターネットで調べてみると

「Hyper Text Markup Language」の頭文字で、インターネットのWWWで表示されるページを作成するための記述言語

.....というような解説がされています。つまり、インターネットのサイトが見られるのは、このHTML言語のおかげなのです。

その仕様についてとかは、開発会社の「大人の事情」が色濃く反映され、あっちのブラウザでは見られるのに、こっちの携帯端末では見られない.....みたいなことがあったりします。プログラマーやエンジニアの方からすれば、ソレに合わせて振り分けるプログラムを書かないといけないのですから、いい迷惑ですよ（苦笑）。

で、話が大きく逸れてしまいましたが.....何を言いたいかと言いますと、「電子書籍を作るのはホームページを作るのと同じ感覚」ということです。だから、ホームページの作り方を知っていた私が、すんなりとSigilを使えたのです。

でも、これを読んで頂いている方で「いまさらプログラム（言語）なんて覚えるのなんて面倒臭いよ」と思う人が多いと思います。そりゃそうでしょう。「電子書籍を作る」という目的のために「まずはXHTMLから！」というのは本末転倒、微妙に遠回りをすることになるのですから。

だから、そのプログラムを知らなくても、ブログを作る感覚で電子書籍が公開できてしまう『パパー』は、日本の電子書籍界において、本当に貴重な存在だと思います。

「XHTML」を使おう！

普段、サラリーマン・OLとして働いていたり、学生として勉強している人に、「XHTML」は難しくないですからやってみましょう……と言っても、その「便利さ」を説得できる自信や腕が私には無いです。

ただ！ この2つだけ覚えておくと、超便利なタグ（言語）があります。それは

段落→ `<P> </P>`

改行→ `
`

この2つです！（※ちなみに、実際に書き込む時は半角英数でお願いします）

多分、多くの『パブー』ユーザーはXHTMLなんて言語を知らずに、電子書籍を作成しているかと思います。で、そうした方々が、だんだん気になってくるのが「改行の余白」のはずです。

「ページがスカスカに見えるから、行間を詰めよう」と思っても、上手くコントロールできず、諦めながらリリースしている書き手の人が多いかと思います。そんな人は……

- ①まず、『パブー』でコレを書いている欄の下に「HTMLエディターに切り替える」という箇所があるので、そこをクリック。
- ②行間を詰めたい文章の、アタマとケツについている`<P>`と`</P>`を探す。
- ③行間を詰めたい前文のケツにある`</P>`と、後文のアタマにある`<P>`を削除。
- ④（`</P>`を削除した箇所の）前文のケツに`
`と書き足しておく。
- ⑤「ウィジウィグエディターに切り替える」の箇所をクリックし、元に戻す。

これだけで行間が変わるはずですよ。

<使用前>

テスト（前文）

テスト（後文）

<使用后>

テスト（前文）

テスト（後文）

ウェブ上ではあまり変化は無いように見えますが、Appleの端末で確認して頂ければ、その行間の違いが出ます。

意図的に改行したい文章で、今までは無駄な空白が生まれてしまったのが、`</P><P>`を`
`に書き換えるだけで行間が詰まります。（※ちなみに、Shiftキー+Enterキーでも`
`に出来るようです）

ホームページビルダーやSigilもそうですが、「エンターキー = 次の段落」になってしまうので、この2つのタグを知っていれば、より理想的な表現が可能になることでしょう。

矛盾（盲点）

自分で電子書籍のマニュアルを書きつつ、「何か、腑に落ちないなあ〜」とおぼろげながらに感じていたことが分かりました！

電子書籍でCSSとか難しい単語を学んでも、『パプー』で電子書籍を作る人からすれば、ほぼ役に立たない！

この一言に尽きます。自分で（マニュアルを）書いていて、いまさらながら気付くとは……。紙の書籍を読んでいたら、ふと気付きました。Sigilの操作法の丁寧な解説があっても、『パプー』では役に立ちません。タグ（言語）を学んでも、『パプー』では使えないのがあります。

「電子書籍を作る技術」と「『パプー』で電子書籍を作る技術」は違うもので、『パプー』以外での電子書籍販売を目指すのでしたら「電子書籍を解説した紙の書籍（参考書）」を読む意味はありますが、ソフトをインストールしたり、タグ（言語）を覚えるのは面倒だから『パプー』だけでいいや……という人は、巷で売っている書籍を読んでも、あまり意味がありません。

私がモヤモヤしていた部分はソコだったのです。Apple系と言いつつ、『パプー』と「それ以外」で作ることを混在して書いてしまっていたのでした。本来なら分けるべきですね。策に溺れた気がしました。

中には、この前に書いた「XHTML」の段落と改行のタグのように使えるものもありますが、そう多くはありません。

ただ、今から全部を『パプー』仕様に書き直すと、自分的にワケがわからなくなったりする部分があるので、急ぎでの加筆・修正はしませんが、分かりにくい部分などを見つけたら（こっそり）直していきます……。

「漫画」を作る

『パブー』で主に売れているのは漫画.....のはずです。まあ、もともと、電子書籍の売れ筋はコミックですから、当然と言えば当然かもしれません。

ちなみに、『パブー』で漫画を作るには、JPEGやPNGといった画像ファイルを用意し、1ページごとに1つずつ画像を貼りつけるという「超」がつくぐらい地味な作業の繰り返しのようです。編集枠の右上に「画像を挿入する」というボタンがあり、そこをクリックすると画像挿入の別ウィンドウが立ち上がります。推奨サイズは縦:1024px、横:724pxです。ただし、「ページのタイトル」を記入した場合の推奨サイズは縦:968px、横:724pxです。

でも.....よく分からないですが、「ChainLP」とかで見ると、iPadの変換サイズが縦:1024px、横:768pxになっているんですね。気になってピクセルについて調べたら、文系の私には理解できないような計算式が出てきたので、興味のある方は[ココ](#)などを見て調べてみてください（苦笑）。

何となく導き出せた答えとしては、単行本のサイズが「A」ではなく「B」基準で作られているため、「B」サイズのアスペクト比で計算すると横が724pxになるため、そちらを推奨しているのでしょうか。つまり「プロ仕様」というか.....。既存の漫画家さんの原稿をスキャンすれば、縦横の比率やサイズを変えることなくiPadで再現できる.....それが縦:1024px、横:724pxなのでしょう。（※間違っていたらすみません）

おそらく、『パブー』で漫画をアップしたいと思っている方は、そう思った時点でデジタルの作画に精通している方ではないでしょうか？ 発表の場が「データ→印刷→コミケ」ではなく「データ→『パブー』」になるだけ.....そんな感じがします。そうでないと、最初の作画に取りかかる時、キャンパス（ページ）の大きさを決められませんよね.....。コミックスタジオなどの漫画（作画）ソフトがどんな仕様になっているか、漫画作成素人の私には分かりかねますが、そういった設定もできるようになっているのでしょうか.....おそらく。

ただ、普段はワードしか使わない人（=私）が、ミリメートルやポイントの単位から、いきなりピクセル計算をするのは結構至難かと。Windowsに付属しているペイントでキャンパスの大きさをピクセルで指定して作れますが、使い慣れていないものですから、文字の修飾やらに苦労します。

写真集を作りたいなら、ちゃんとピクセル変換の計算を勉強して最適なサイズを割り出す必要があるかと思います。でも、文章主体でいきたい方は、それほどピクセルの勉強に時間を割いてもしょうがない気がします。現に、この書籍の表紙はパワーポイントでピクセルなどを指定せずに作った表紙ですが、あまり違和感は無いですよね？ 別なファイルで写真を使ってみました。ピクセルを指定しないでも、さほど気になりませんでした。

逆に考えると、マンガの単行本が「B」を基準としているなら、元の用紙設定を「B6」とかにすれば自然に最適なサイズになるのではないのでしょうか？

むしろ、写真主体の本をアップする時に注意しなくてはならないのはページ数のようです。あまりに多いと、PDF・EPUBへの変換の作業でエラーが出るようです。基準は**100**ページぐらいみたいなので、長編を描きたい方は適度に分割してアップすることをオススメします。

リバース・エンジニアリング

「他社の製品を分解し、仕組みを解析（そして良い部分を自社の製品に取り込んでいく）」という作業をリバース・エンジニアリングと言うらしいですね。

パソコンに「Sigil」をインストールしている人は、一度、自分で作ったEPUBの書籍を取り込んで、「Code View」でタグを見てみると良いかもしれません。サイトの仕組みへの理解が深まるかと思います。

トラブルでも書いているのですが、AというソフトでOKなタグが『パプー』ではNGだったり、また逆もしかり。この作業の繰り返しで、エラー発生が減っていくはずです。

「calibre」を使ってみた

「電子書籍を作りたい」と、いろいろ調べていたら、いくつかの便利ソフトがあることが分かりました。その1つが

「[calibre](#)」（キャリバー）です。トップページは英語ですが、「DOWNLOAD」とか書いてあるので、直感で落とすことが可能だと思います。

どんなソフトか一言で言うなら「変換ソフト」の類です。PDFからEPUBに変換したり、キンドルで読むためのファイルに変換してくれたりします。

ただ！ 使ってみました、ぶっちゃけワケワカメです（苦笑）。日本語対応している部分もあるのですが、肝心なところは英語表記なのが、一番のハードルかもしれません。初心者は、まず手を出さない方がいいでしょう。

一応、便利そうなので、PDFからEPUBへの変換をいろいろと実験してみました。

まず、ワードなどのワープロソフトから作成したPDFを、calibreを使ってEPUBにしてみると

「……文字の修飾とかが全部無くなってる」

PDF上では赤や青の文字が、黒一色に！ 書式がデフォルトに戻されていました。じゃあ、写真は？

「……ズレまくり」

ワードアートで作った図表やら、背面に配置した挿入した写真の類は、別のページに表記されていました。

あまりにも期待を裏切られて悔しかったので、そのPDFの内容を「PrtSc」し、画面を写真としてワードに貼り付け、その状態でPDF化。これをcalibreに読みこませてEPUBに変換しましたが。

「……（画面を回転すると）伸び縮みして縦横比がズレる」

という結果に陥ったのです。ビットマップでは厳しいみたいです。

でも、PDFをフォトショップに読み込ませて作ったJPEGを、ワードに貼り付けた状態でPDF→EPUBとやったら、今度は上手くいきました。私の技術知識が不足しているため、なぜそうなったかは不明ですが、calibreを使ってEPUBの作成を考えている方は、ワードアートなどの修飾のあるファイルは避けた方が無難かと。無理矢理に電子書籍にせず、PDFで閲覧する方がいいと思います。

一方、ScanSnapから作成したPDFをcalibreに読み込ませたら、これは上手く変換できました。PDFはPDFでも、OCRをかけていないため、「写真」として認識し取り込んでいるようでズレなどはありませんでした。

ただ、EPUB形式は「部分的な表示拡大」などができないため、iPhoneやiPod touchでA4サイ

ズの雑誌を見るのは至難の業です（苦笑）。iPadの方だと、サイズはちょうどいいと思います。

結論としては、ノーマルなテキストと、JPEG形式の「写真」で構成されるPDFをcalibreで変換するのはいいですが、凝ったワードの文章をEPUBに変換するのは止めといた方がいいかも……ということでしょうか。

「ChainLP」を使ってみた

calibreを探している時に見つけたフリーソフトをもう1つ紹介すると、「[ChainLP](#)」というのがあります。

ただ、これは絶対に初心者が手を出すべきソフトじゃないです……。使えるようになるまでのセッティングが面倒で、かつ、編集のプロでないと分からないような用語がバンバン飛び出します。

1つ……。覚えて、使いこなせるようになると「良い点」は、縦書きで書かれた文章のファイルが作れることでしょう。つまり、見た目が（紙の）小説っぽいものが作れるのです。

通常、EPUB形式のファイルは横書きに強制されてしまいがちですが、ChainLPを使うと、横書きのテキストから縦書きの文章ファイルが作れます。

「どんな仕組みになっているんだろう？」と、リバース・エンジニアリング精神でファイルのタグを調べた結果、どうやらテキストを「画像」として生成している模様……。だから、Sigilで本文の編集などは一切できません。

このソフトは、どちらかと言えばキンドルユーザーのためのソフトみたいです。Apple系端末を使うユーザーも覚えておいて損ではないですが、無理矢理使う必要はありません。これを覚えるなら、calibreを使いこなせるようになった方が得だと考えます。

あと、生成されたファイルは、ちょっと重たいかもしれません。試しに、青空文庫から引っ張ってきた文章からEPUBを作ってみたら10メガを超えました（泣）。

電子書籍内リンク

『パブー』を使って、外部URLへのリンクが出来るのは確認していますが、内部の.....書籍内リンクをどうやるのかが疑問でしたが、その謎が解けました。

そもそもEPUB形式というのは、ホームページで使う道具一式をまとめたファイルですが、その内部での階層というのはある程度決められています。xhtml（本体）のファイルはこのフォルダ、写真はこのフォルダ.....にあると。その「場所」さえ指定すればリンクが貼れます。別の書籍をリバースしたら、そのことが判明しました。でも、ページの見出し部分に飛ばすことは可能ですが、「文字」に直接リンクを貼れるのかは不明です。

ただし！ 『パブー』で作成する書籍では無理矢理やらない方がいいと思います。と言うのも、『パブー』は手軽にページを入れ替えることができるので、ページ内リンクを指定しても、後々にズレる可能性があるからです。例えば

はじめに

目次

Aの章 (001.xhtml)

Bの章 (002.xhtml)

Cの章 (003.xhtml)

と用意し、目次のページからCのファイルへリンクを貼ったとします。でも、途中で「やっば、BとCを入れ替えた方がしっくりくるな」と思い入れ替えた時、ページ内リンクは「C」の内容や見出しではなく「**003.xhtml**」のファイル名を参照先とするはずで、以下のようにBのページへ飛んでしまうはずで

はじめに

目次

Aの章 (001.xhtml)

Cの章 (002.xhtml)

Bの章 (003.xhtml)

1～2個所程度なら問題無いですが、ページ数が多くなるにつれ複雑化していき、なかなか気付けなくなります。

どうしてもリンクしてみたいのであれば、完成したEPUBファイルの拡張子をzipに変えて開き、目的のファイルの階層やファイル名を調べ、リンクのタグを使い「./text/○○○.html」という感じでリンクしてみたらいいと思います。

「CSS」とは？

EPUB形式の電子書籍を作っていると、「CSS」というワードを目にすることが多いと思います。これは「**Cascading Style Sheets**」の略で、一般的にはスタイルシートと呼ばれています。上級者の方なら説明されなくても分かるかとは思いますが、念のために「個人的な言葉」で解説するならば、ホームページを「構造（文字・写真）」と「デザイン（色）」に分けた時のデザインの部分と言えはいいのでしょうか？ 漫画『キン肉マン』の王位争奪戦で、ミキサー大帝に火事場のクソ力分離されてしまった場合で言うなら、HTMLがキン肉マン本人で、火事場のクソ力がCSSみたいな……（苦笑）。

マニアックな例えを出してしまいましたが、コンビニの弁当で例えると、販売する店舗がHTML部分、弁当製造工場がCSS部分みたいなものです。HTML部分となる店舗は、地域・場所によって広さも内装も違います。でも、CSS部分の工場が外部にあるから、同じ味（デザイン）のお弁当を提供できるのです。もし、店舗ごとにお弁当を仕込みからやらないといけなくなったら、チェーン店のお弁当なのに、味がバラバラになってしまいますよね？ ホームページも一緒に、毎日の日記を1ページずつ作っていたら、書き込みミスでデザインが異なってしまう場合があります。だから、デザイン部分を独立させておけば、そういった味のバラツキが起こらなくなるのです。

「何でこんな面倒くさいことをするの？ 一緒に混ぜて書いちゃえばいいじゃん！」と思う方もいると思いますが、そうすると、新しいページを作るたびにCSSを既存のページからコピペして書き込まなければならず、ものすごい手間がかかります。また、「このホームページのバックの色を、赤から緑にしたいな〜」など、デザインを変更したい時に、ページの数だけCSSの記述を書き直さなければならず、たった1つの色の変更にもものすごい手間がかかるのです。

これを外部のCSSという独立したファイルにしておけば、ソコを変更するだけで一括でデザインを変更することが可能なのです。ホームページが出始めの頃はそんなにメジャーではなかったのですが、ある頃を境にCSSが頻繁に使われるようになりました。（※私はCSSの登場を機に「HTMLやJavaScript（ダイナミックHTML）の他に、まだ覚えることがあるのか！」と、ホームページの勉強を止めてしまいました）

ただ！！ 『パブー』では外部ファイルの読み込みが不可能で、かつ<head>部分が無いため、一括してデザインを変更することが出来ません。CSSが全く使えないわけではありませんが、より、自由度の高いデザインを求めたならSigilなどのEPUB作成ソフトを利用することをお勧めします。

「CSS」を使おう！

前のページでスタイルシート（CSS）のことを説明しましたが、実際に『パプー』で使える「本体埋め込み型」のタグを紹介します。ただ……おそらくいろんな指定が出来るのでしょうけど、あまり一気に詰め込んでも使いこなせきれないのと、私が未熟で全てを説明出来ない（苦笑）ため、今回は特に利用頻度の高い「色」のみの解説とさせていただきます。

文中の指定の文字に色をつける方法は主に2パターンあります。<div>というタグ（言語）で囲む方法と、というタグで囲む方法です。何が違うかと言うと、<div>の方は段落指定になってしまうことでしょうか？ 文章の流れで強調したい部分だけに色をつけたいのに、<div>で指定するとその部分は勝手に段落として独立してしまいます。だから、どちらかと言えば、最初はで囲むことをお勧めします。前のページで使っていますが……以下のような方法でやりました。

まず、HTMLエディターに切り替え、色を付けたい文字の前に（半角英数で）と書き、後にとつけて囲みます。「red」の部分は緑にしたいなら「green」というようにも出来ます。どこまで細かい色が再現できるのかは試していないので、お好みで試して下さい。おそらく、青とかメインどころとなる色は出せるはずです。

段落にまとめて色を付けたいのでしたら、<P>の部分に<P style="color:red">というようなタグを追加すれば、こんな感じに赤になります。

色が使いこなせるようになると、太字による強調だけではない多彩な表現が可能になり、より創作意欲が湧くと思います。

「紙」の書籍（マニュアル）

この電子書籍を読んで、自分の作品を作成できればいいのですが「説明を簡単に書きすぎてて分からねーよ！」とお怒りの方もいるかもしれません。なので、「紙」の書籍派の方のために、一応、オススメのタイトルをリンクしておきます。

[電子書籍の作り方ハンドブック—iPhone、iPad、Kindle対応](#)

比較的「薄い」本なので、余計なことが書かれていません。「Sigil」の使い方が丁寧に説明されており、P112あたりからのタグ（言語）の解説なんかは『パブー』でも役に立つのがあるので、読んでおいて損は無いと思います。『パブー』以外で電子書籍を作りたい人のための、超入門書です。

ちなみに、『パブー』での作り方の説明も、6ページに渡って書かれています。

[電子書籍の作り方、売り方 iPad/Kindle/PDF対応版](#)

上の書籍を読んで「もっと、電子書籍のことを知りたいな」と思った時に読んでみるといいかもしれません。まえがき（歴史や意義）の部分が長かったりするのはご愛嬌ですが、“作り方”の本としては悪いものではないと思います。Appleではなくキンドルなど、別の端末に興味を持っている人には役立つはずです。

ちなみに、『パブー』での作り方の説明も、8ページに渡って書かれています。

[電子書籍のつくり方・売り方](#)

2つ目に紹介した本と似ていると言えれば似てます。タイトルも「作る」か「つくる」かで、非常に紛らわしいです（笑）。私も「電子書籍」の書籍売り場で見かけたのですが、前出の2つの方が魅力的に感じたので、こちらの本は購入しませんでした。お金と時間に余裕のある方、電子書籍関連本を一通り読みたい方は買ってみるのも良いかもしれません。

逆に！！

[誰でも作れる電子書籍 今すぐできる制作から販売まで](#)

この本に関しては、Amazonのレビューでもある通り「電子書籍の作り方」がメインの本ではないでご注意を！ 米光一成さんという方が電子書籍を作るまでの苦勞とかをまとめた日記みたいなものです。ガチのマニュアルではありません。「あ！ こんな実験的なことをやっている人もいるんだ」ぐらいの感覚で見るとちょうど良い感じですよ。『パブー』でもいろいろやられているようなので、検索してみてもいいのでは？

其の1

記念すべき最初のアップロード。ワクワクしながらiPod touchで確認したら、いきなり「エラー」表示が出ました（泣）。原因を調べてみると、「タグがミスマッチ」ということで……。別なソフトで作った「リスト」が、『パブー』ではNGだったようです。太字のタグも、Sigilだとで囲むのですが、『パブー』ではで囲むなど、微妙に違っていたりします。スタイルシートの件も含め、やはり、文字の修飾は『パブー』のサイト上で仕上げた方が無難だと悟りました。

其の2

同じ「リスト」で、番号付きリストの方を選択しようとしたら、なぜか端末でエラーが発生。『パブー』のウェブ上で編集したはずなのに……。タグを見ても原因不明だったので、仕方なくアナログの①②・・・としたら、エラーは出ませんでした。リスト機能はどうなっているんでしょう？

Tips 其の1

「いちいち、ネットでダウンロードして、iTunesに登録して転送（同期）するのが面倒！」という場合、「Safari」のブラウザから直接落とすという手があります。iPod touchでチャレンジしたところ、EPUB形式は無理でしたがPDF形式はダウンロードして見ることができました。

「ネットからのダウンロードのみ無理なのか？」と思い、GmailにEPUBファイルを転送し、iPod touchへのインストールを試みましたが添付ファイル形式が端末に認識されずダメでした。どうやら、EPUBはiTunes経由でしか取り込めないようです。

電子書籍関連サイト

作るのは『パブー』で十分ですが、配布（閲覧）とは別モノなので、電子書籍をアップできるサービスへのリンクを記載しておきます。『パブー』で作成したPDFやEPUBのファイルを自らダウンロードし、こうしたサイトへ投稿してみるのもテかと思えます。

[iPadZine](#)

（アイパッドジン）

ツイッターを利用した電子書籍投稿サービス。主に書籍販売のプロモーションの場かと思われる。ツイッターアカウントがあれば、すぐに投稿できるとのこと。EPUBを投稿できるようなので、Sigilなどでカラフルに作成した作品の直接投稿が可能。

「まえがき」で、2010年は電子書籍元年……などと書きました。

このページを書いている今は2011年の半ばですが、すっかりブームは落ち着いてしまいましたね。ガラパゴス、リーダーなど、電子書籍を読むハードが続々と投入されたのですが、結局「ソコ（電子書籍）」では盛り上がりを見せませんでした。誰かが書いていましたが、電子書籍がブームなのではなく、電子書籍について語る事がブームだった……ということなのでしょうか。

ですが、自分は「やっぱりな」という感じもしています。だって2万円近くも出して、太宰治とか宮沢賢治とかの青空文庫系を読みたいと思う人は少ないでしょう。これらのハードを買い求める人は「新作」が読みたいのに、既得権への配慮からか売れてる新刊はほぼ電子業界に進出してこないですし。

Apple系は電話としてのiPhone、セカンド&サードPCとしてのiPadの「おまけ」としての位置に電子書籍機能がありました。決して、電子書籍を読もうと思った人が買ってiPadが売れたわけじゃないです。逆に、日本のメーカーが専用機で後乗りしてコケたみたいで恥ずかしい感じすらします。

ちなみに、私は単行本から電子書籍を「自炊」していますが、ぶっちゃけて言えば、単行本として読むのと電子書籍で読むのとでは、頭への入り方（記憶の定着）が微妙に違っているように感じました。本の厚みを感じながら読む方が、印象に残りやすい気がするのです。これは、昔から本を紙で読んできたからかもしれないですが、何か違うんですよね。「今、読んでいるシーンは、物語のどれぐらいの位置なのか？」とか手先で感じながら読む方が、何となくワクワクしてくるのです。人間が1000年以上に渡って使ってきた「記録」の手段だから、DNAがそうさせるんでしょうかね？